

2 合格者の答案例①（2020 年合格者）

(1) 志望理由書の答案例

問題

本学ビジネス・スクールへの入学志望理由について記述し、とくに MBA の取得を自分のキャリアにどのように生かそうと考えているか述べなさい。

答案例

私の今後のキャリアとして、経営に携わりたいという夢を持っている。2011年に起業を行ったが、2019年に会社を清算した。現在は2019年より現職で幹部候補生として将来の経営を担うマネジメント職に就いている。プレイングマネージャーとしてプロジェクトの管理、人材の管理、事業計画の作成などを行っており、40名程の会社ではあるが、将来的に大きな企業に発展させたいと考えている。現在の会社は創業4期目であり、シニア層の経験のあるITコンサルタントと大学を卒業した若手が多く在籍し、私のような40代の中間層は3名しか在籍しておらず、数年後の経営体制について不安を持っている。そのためにも会社をオペレーションしていくための経営戦略をはじめとした基礎科目を体系的に学び、現在コロナ禍でグローバルビジネスが停滞気味ではあるが、国内だけでなく世界で通用するグローバル・マネジメントについて研究したいと考えている。特に日本でのマネジメント手法を海外現地法人へそのまま持って行ってもその国にあったマネジメントを行う必要があると考えているため、その点を中心に研究を行いたいと考えている。

私は22年の職務経歴がある。42歳で22年の職務経歴というのは大学院受験で通常では考えられないと思うが、19歳から通信制の大学に通学しており、働きながら勉学に励んだ。当時はフリーランスのシステムエンジニアとして〇〇や〇〇の子会社で働いていた。当初はエンジニア職であったが、24歳の時に当時働いていた企業のサービス戦略室のメンバーとして抜擢され、その後、サービス企画、プロダクト企画、プリセールスや広報と幅広い分野で仕事を行うことになった。結果、当時は仕事が面白く勉学が疎かになってしまい、一校目の通信制の大学については中途退学することになってしまった。しかし、仕事を進めていく上で、大学で学ぶことの重要性を感じるようになり、一校目の取得単位が三年次編入学の基準を満たしていたことから〇〇の通信制大学に通い、2010年に卒業することができた。大学では経営の基礎中の基礎を学び経営に興味を持つことが私の人生におけるターニングポイントであったと考えている。その後前述した通り、2011年に起業を行ったが、約8年間の企業経営を行い、

2019年2月に結果的に会社を清算する決断に至った。

2019年4月に縁があり、開発会社の子会社でコンサルティングやグローバル進出を行う会社に就職することができた。現職に就いてから、当初は〇〇グループのタレントマネジメントサービスの導入プロジェクトにコンサルタントとして従事することになった。過去には人事系のコンサルティングは行ったことはなかったが、フリーランス、自身での起業時に〇〇の仕事をメインに行っていた関係で〇〇の企業文化については多少なりとも理解していたため、アサインされたと考えている。しかし、企業文化がわかっていても、〇〇グループの人事制度の知識はゼロに近かったため、大学で学んだ人材マネジメントのテキストなどを読み返し、タレントマネジメントとは何なのか、一から勉強を行った。1年後の2020年4月に同サービスを無事にリリースした際には心から嬉しかったのも記憶している。リリース後は異動となり、本社勤務で中期事業計画の立案、営業戦略の立案を中心に現在業務に従事している。同社では設立して間もなく、初めて中期事業計画を作成することから、2022年までに行うべき経営目標、戦略、手法、KGI、改革についてまとめた。ただしフレームワークをきちんと学んでいない私にとって、この事業計画書が果たして本当に正しいものであるのか疑問を持っているのも事実である。

経営戦略をはじめとした基礎科目についての研究は、会社の方向性を示すものであり、会社存続における非常に重要な役割であると考えている。貴大学院の説明会でも卒業生の方が体験談としてお話されていた通り、基礎科目を履修したことで、現在の業務を円滑に進められていると伺った。充実した基礎科目と青山アクション・ラーニングで実務に近い分野が総合的、体系的に学べる貴大学院を志望した理由である。

私の今後のキャリアについては、以下の2点を考えている。1点目として前述した通り、現在の会社では30～40代の人材が不足しており、将来の会社経営の礎となり、自分自身の失敗した経験を踏まえ、現在の会社を飛躍的に発展させることである。2点目は現在の会社の親会社は持株会社であり、傘下に約50社の企業がある。ただし、一部上場企業を除き、グローバルビジネスはほとんど行っておらず、グローバル部門を立ち上げたいと考えている。自身で経営していた際に〇〇の海外子会社のコンサルティングを行っていたが、体系的に学んでいないため、より一層努力し、経営戦略やグローバル・マネジメントを一から学びなおす必要があると考えている。これらのことから、私自身の能力が欠如している部分を補うためにMBAの取得は必須であると考えている。

私は、22年間の職務経験の中で15年程海外の取引先と仕事を行ってきた。

3 コンサルティング業界・女性（2022年入試） の面接レポート

(1) 面接の概要

面接日：2022年10月2日（日）

面接官：2人

面接時間：17:30～17:42

面接を行った場所について：青山学院大学 17号館 7階。待機室に3人がいる。

面接の部屋はやや広め、先生 3m ぐらい離れて座っていたため、マスク越しの質問が若干聞き取りづかった。

(2) 面接レポート

私：〇〇と申します。本日はよろしくお願いいたします。

面接官：着席してください。では質問します。まずは青山学院大学の志望理由および MBA に行く目的を簡潔に教えてください。

私：MBA にいく目的について説明します。私は去年から社内横断プロジェクトの担当になり、自分で判断・決断しないといけない場面が多くあった。自分の決断のリスクをできるだけ減らしたいと思い、体系的に勉強したく、MBA にいくことを考えた。もうひとつは MBA のネットワークを広げたいのです。海外 MBA を調べたとき、多くの人の MBA に行く目的はネットワークづくりが挙げられることを知って、日本国内 MBA でもネットワークを広げたいと考えた。青山学院大学にした理由はアクションラーニングと人間ネットワークに魅力を感じたからです。ここなら自分のやりたいことができると感じました。

面接官：プロジェクトは何人体制？

私：複数の部署が参加するプロジェクトで合計 40～50 人プラス協力パートナーです。

面接官：教室見学で OB と話した？その人達の仲間になりたいと思った？

私：はい、そうです。土曜日の夜にみんなが集まって課題解決のために一緒に勉強し、こういうみんなの仲間に入りたいと思いました。

面接官：ネットワークを作って何をする予定ですか。

私：より大きな課題を解決するために、ネットワークが必要だと思います。例えば、海洋プラスチックの課題を解決するために、新規素材を開発していますが、その素材を利用してもらうネットワークがあると、より多くのプラスチックをリサイクルできるとかです。

面接官：アクションラーニングのどこに魅力を感じた？

私：マーケティングマネジメントプランニングに一番魅力を感じる。今までのマーケティングプランは大手代理店の提案を採用することが多くあったが、どういった分析して、戦略を描けるか自分でやりたいと思った。

面接官：なるほど、ではお時間になったので、ここで終了になります。

【面接の終えての印象】

質問は難しくないが、MBA に行く目的や青山学院大学を選んだ理由をより簡潔にまとめる必要があった。MBA に行くことと実務を結ぶ質問が多かった気がします。プロジェクトの内容も聞かれる必要があるので、準備してよかった。12 分で終了しましてかなり時間が短かったです。

【他受験生の印象】

受験生リストにかなりの人数がいた。年齢層は 40 代が多い気がする。女性は 2 割程度でした。

【受験生へのアドバイス】

面接時間までに屋外に待機するので、早く来ても外で待つことになる。場所は表参道駅が一番近かったが、改札口から出口まで距離があるため、少なくとも 10 分以上かかった。渋谷駅方面からは人が多いため、15 分ぐらいはかかる。